

第658回建設技術講習会 現場研修事業の概要

1. 大河津分水路改修事業

..... 燕市五千石～長岡市寺泊

- 大河津分水路には可動堰が、信濃川に洗堰が設置されており、両施設が連携稼動することで、洪水時に信濃川下流域に洪水が流れるのを防いでいる。
- 1931年6月20日に延べ124万人が動員された補修工事が完了。漸く安定した運用が可能となった
- 1992年には本川側の堰である洗堰の改築事業に着手し、2000年5月29日に新洗堰通水。（2002年事業竣工）
- 使用されなくなった旧洗堰は産業遺産として国の登録有形文化財に登録された。
- 2003年には可動堰の改築事業に着手し、2011年11月23日に新可動堰通水。（2014年事業竣工）
- 大河津分水路の洪水処理能力の向上は、信濃川中、上流区間でも河川改修を推進することが可能となり、それら進捗に併せ、上流の長野県区間の河川改修を推進することで、信濃川流域全体の治水安全度が向上する。
- 戦後最大規模（1981年8月）の洪水が流下した場合、家屋浸水被害を防止、軽減を目的に河口から上流へ延長3.3kmの区間で放水路の拡幅を図る改修工事が2015年度から2032年度まで行われている。
- 改修工事では、山地部の掘削、第二床固改築、野積橋の河口側への架け替えなどが行われている。



2. 新潟駅周辺整備事業

..... 新潟市中央区花園

- 日本海側の拠点にふさわしい都市機能の強化に向けて、連続立体交差事業を核とし、幹線道路や駅前広場などの都市基盤整備、周辺市街地の総合的な整備を図る新潟駅周辺整備事業を進めている。
- 連続立体交差事業は西誇線橋の新潟駅寄り付近から都市計画道路万代島ルート線（栗の木バイパス）までの約2.5kmの区間を高架化し、2本の踏切の除却と4本の幹線道路整備により南北市街地の一体化を図る。
- 2018年4月に第一期開業を迎え、駅部では2～5番線、西側の越後線全線、東側は2線（完成4線）が供用、あわせて新幹線と在来線の同一乗り換えホームも使用を開始した。現在は2021年度頃の全線高架化に向け第二期工事を進めている。
- 全線高架後、高架下交通広場（バス乗降場）や万代広場の整備を実施する予定。



3. 寺山公園整備事業

..... 新潟市東区寺山

- 2018年4月にオープンした寺山公園は、「緑に囲まれた健康・交流・子育ての場」をコンセプトに新たに整備した約4.6haの地区公園。
- 基本理念は「遊ぶ」「つながる」「楽しむ」とし、一年を通して利用でき、子育てや多世代の交流拠点となることを目指した公園。
- 公園内には、多様な健康レクリエーションの場や地区住民の憩いの場を確保するとともに、子供たちの健全育成を図るため、荒天時も安心・安全に楽しめるよう、子育て交流施設「い～てらす」を整備。
- 災害時には避難場所として活用できるよう、防災トイレや、かまどベンチ等の設備も有している。

